

◎ Profile

佐々木紅葉=浜=。4月から新1年生。新しい制服とランドセルで初めての登校中。「初めての友だちがいっぱいで少し不安だな。でも、国語が楽しみ。早く漢字を覚えたいな」

特集

「スタート」

新年度が始まった4月。町内では、さまざまな場所で「スタート」が切られました。

どんな「スタート」があったのか、みんなでのぞいてみましょう。



カメラリポート
紅葉ちゃんの
ドキドキの1日



ドキドキ。
何組かな。
「1年生だから、
1組がいいな」



家の前で家族みんなで「はい、チーズ」

「あ〜！ 名前見つけた!!」
クラスは1年4組。
友だちいっぱいできるかな？



保育所で一緒だった友だちに再会。
「クラスは何組だった？」
制服で会うのは、何だか新鮮だね。

3月まで通った保育所、懐かしいな。



クラスも分かったし、次はいよいよ「入学式」。

住田花音 すみだ・かのん
 小学校生活にはなかった部活動
 や教科をがんばりたいです。



在校生や保護者を前に「誓いの言葉」(岡田中学校)



ふう。緊張した入学式が終わったよ
 (松前幼稚園)



温かい拍手の中、退場(北伊予中学校)



vol.1 入園・入学 新生活の「スタート」

新生活が始まったのは紅葉ちゃんだけではありません。
 町内の小中学校の入学式は9日、
 町立幼稚園の入園式は13日に行われました。
 新入生たちは上級生らに温かく迎えられ、
 期待に胸を膨らませながら新生活を「スタート」しました。



お姉さんと仲良く手をつないで入場(北伊予小学校)

少しだけ大きめの制服で入場
 (岡田小学校)



大野桃花 おおの・ももか
 音楽の授業で楽器をひくのが楽
 しみ!! 算数もがんばりたいな。



先生さようなら。
 また明日も友だちと仲良くして、
 元気いっぱい学校に行くよ
 (松前小学校)



元気にお返事できたよ
 (古城幼稚園)



穴見優士 あなみ・ゆうじ
 砂場で大きい山を作っ
 て遊びたいな!!

別れの季節が過ぎ、新たな
 出会いの季節を迎え、新生活
 の「スタート」を切った多くの
 子どもたち。
 「○○を頑張りたい。○○が
 楽しみな」
 それぞれが新生活への目標
 や楽しみを見つけ、前に進ん
 でいました。
 その一方で、感じた不安な
 気持ちも。
 「知らない友だちがいっぱい
 で不安だな。新しい生活にな
 じめるかな」
 でも、それは誰もが同じこ
 とです。周りを見渡せば、同じ
 ように思っている人がいます。
 そして、入園式・入学式を見
 守ってくれた先生、家族、上級
 生、地域の人など、助けてくれ
 る人もたくさんいます。
 これは、子どもたちだけで
 なく、大人も同じです。慣れ
 ない環境には、楽しさと同時
 に不安も付きまといつてきま
 す。でも、周りには同じ環境で
 悩んでいる人や、手を差し伸
 べてくれる人がいます。
 季節と共に切られた「ス
 タート」。みんなで楽しみや不
 安を共有し、乗り越えていき
 ましょう。



124人が期待に胸を膨らませ入学
 (松前中学校)



vol.3 スポーツ 経験を糧に「再スタート」

松山ボーイズで硬式野球に励む高下瑞希くん、澤田連くん、澤田脩良くん、澤田准くん。この春に経験した全国の舞台を糧に、新たな目標に向かって「スタート」しました。

3月26日、東京で行われた第45回日本少年野球春季全国大会。挑んだ舞台は、緊張とチームメイトの負傷もあり、思うようなプレイができませんでした。でも、この経験を糧に4人は前を向いています。「緊張せずにプレイができるように練習を頑張りたい」と連くん。脩良くんも「全国では



この春、8年ぶりに全国大会に出場した松山ボーイズ所属の4人。全国での経験を糧に、さらに高みを目指して「再スタート」です。

◎ Profile (写真左から)

高下瑞希 ポジションはセカンド。新中学1年生。北黒田
澤田連 ポジションはショート。新中学1年生。永田
澤田脩良 ポジションはセカンド。新中学1年生。永田
澤田准 ポジションはショート。新小学6年生。永田

2アウトから塁に出ることができた。これからもバッテリーを磨きたい」と今後の目標を話します。全国では応援して先輩を見守った准くんも「打つのが好き」と話し、家で素振りに励んでいます。

それぞれが個人の技術を磨こうとするのには理由があります。「もう一度全国大会に出場したい」と話す瑞希くん。瑞希くん、連くん、脩良くんの3人は小学部卒団のため次のステージで、准くんは最高学年として同じ舞台に立つため、「再スタート」を切ります。

vol.2 新規開店 心機一転の「スタート」



◎ Profile

上野靖史=恵久美=。10年ほどオーストラリアで生活。自転車チームで整備を行っていた。

祖父や父も家業とした自転車屋。オーストラリアの自転車文化も吸収し、松前町での新たな「スタート」です。

約10年間のオーストラリア生活を経て、初めて住む松前町で心機一転「スタート」を切ったのは、上野靖史さん。3月に西高柳で自転車屋を開業しました。

「ほどよいサイズの町だし、自転車屋が少なく地域貢献もできそうだし」と思い、松前町に決めました。自分が好きな海も近いですからね」と、松前町で新しくスタートを切ったきつかけを話す上野さん。「修理できる場、お気に入りの一つが見つけれられる場になった」と話すように、子どもからお年寄りに合わせた自転車だけでなく、レース用の自転車も幅広くそろえています。



年代、嗜好(しこう)に合わせた自転車が並ぶ

でも、ただ販売するだけではありません。「自転車を通して横のつながりができたら」と話す上野さんは、レース専門とそれ以外のサイクリングチームを作り、みんなで楽しめる場を生み出しています。

「自分の好きなところに自由に行くことができ、ジョギングより体の負担にならない」ことが自転車の魅力だと話す上野さん。若いころからレースやイベントにも参加し、おすすめのサイクリング場所もよく知っているといいます。「地域に自転車を根付かせたい」という思いを胸に、上野さんの心機一転の「スタート」はまだ始まったばかりです。



一人一人に合ったサイズに調整していく

2月22日に東京で行われた第26回全日本テコンドー選手権大会。この大会で前回に引き続き3位入賞を果たしたのが足立望美さんです。

「挑戦者の気持ちで、相手に外に追い出す気持ちを持って挑みましたが、負けてしまいました」と、王者との戦いを振り返る足立さん。悔しさをにじませます。

昨年から大学院生となり、なかなか練習にも参加できない環境。それでも、テコンドーを続けるのは、「できなかった技ができるようになる

とうれしいし、やっぱりテコンドーが好きだから」と、きっぱり話します。

学生生活最後となるこの1年。「後悔しないようにしたい」と話す足立さんは、大会のほか、昇段試験に向けて練習に励み、自分を磨いています。そして、「挑戦者として何ができるか楽しみです。最低でも3位に入りたい」と、決意を新たにしています。

後悔のない1年に向けた足立さんの「スタート」は、挑戦者として前を見据えています。



◎ Profile

足立望美=上高柳=。部活動紹介の瓦割りを見て、大学からテコンドーを始める。国際交流にも興味あり。就職活動中の大学院2年生。「最後の学生生活、いろいろなことを楽しみたい」

全日本テコンドー選手権大会2年連続3位。学生生活最後の1年。後悔のない1年のため「スタート」です。

耳の不自由な人のための「スタート」



文字を書いてコミュニケーション「携帯用ホワイトボード」

耳の聞こえない人や聞こえにくい人のために、話された文字を要約して伝える「要約筆記」。この要約筆記を行うボランティア「オリーブまさき」でも新しい試みが「スタート」しようとしています。

「災害・防災については、音声情報が多いから、耳の不自由な人は困るんです」と話すのは、メンバーの川田節子さん。北川原。いざというときにも対応できるように、普段から地域でのコミュニケーションの道具となればと「携帯用ホワイトボード」を作成しました。そこで、3月8日に行われた東日本フェスタでも展示コーナーを設置して紹介しましたが、東日本大震災から4年が経った

3月11日、震災で耳の不自由な人が経験したある新聞記事を見てホワイトボードを広めたいという思いが強くなりました。「記事に、『ちゃんと情報が伝わってれば助かる命があった』『避難所生活では、コミュニケーションがうまくできず、神経をとがらせていた』と書いてあったんです」

ホワイトボードを広めたいという思いは、メンバーの山下照子さん。西高柳も同じです。「ちょっとしたことでも誰でも救うことができるということを知ってほしい」と話す山下さんは、交渉を進め、一部の地域サロンでもホワイトボード作りを行うことができました。持っているものをと費用のかからないものを利用して、外は包装紙やお菓子箱を再利用しています」と笑顔で川田さんも話します。

大きさはどうしたらいいか、どの形が携帯しやすいか……。まだまだ試行錯誤の毎日です。でも、松前町内に携帯用ホワイトボードを広げるための「スタート」は、すでに始まっています。



⑥ホワイトボードを前に笑顔の山下さん(右)と川田さん(左) ⑦ホワイトボードはカバンに入れても場所をとらない。「普段は買い物メモに使ってもらえたら」

携帯用ホワイトボードについて詳しくは、山下照子さん(☎984-8144)まで。会員も募集中です。



町内にいる誰もが、いつでも安心してコミュニケーションがとれるように。新たな試みの「スタート」です。



「スタート」は、季節の移り変わりや何かの節目にだけに訪れるものではありません。あなたが「何かしたい、頑張りたい」と思ったときには、「スタート」に向けた一步を踏み出しているのです。この春、あなたは何の「スタート」を切りますか？



地域みんなの安全のために。地域防災の中心的存在として、19人が新しく「スタート」を切ります。

地域のための「スタート」

「自分たちの地域は自分たちで守る」という精神のもと、地域の皆さんの生命や財産を守るため、地元住民で結成されている消防団。ここでも新たな「スタート」がありました。

新年度が始まった4月1日、「安心安全で明るい笑顔あふれる松前町のために」という池内消防団長の激励を受け、19人が新たに団員として加わりました。「子どもが地域でお世話になっているから、地域の人に恩返ししていきたい」と話すのは、第9分団に加入した谷田慎太郎さん。北川原。松前町に住んで12年になり、昨年からは、地域での関わりの中、消防団に誘われ、恩返ししたいという思いを決めました。19人はそれぞれの思いを胸に、仕事の傍ら消防団員としての新たな「スタート」を切ります。

<p>第1分団 うへだ ひでしげ 上田英茂 (南黒田班) たまい あつし 玉井厚</p>	<p>第2分団 むかい ゆうすけ 向井佑輔 (新立班)</p>	<p>第3分団 えびすだ ゆうじ 戒田裕司 (本村班) みやうち りゅうま 宮内龍真 (本村班)</p>	<p>なかじま まさゆき 中島正順 (本村班) うつのみ やしんいち 宇都宮真一 (筒井班)</p>
<p>第4分団 こうの まさのり 河野真範 (徳丸班) おおまさ ゆうじ 大政勇二 (中川原班)</p>	<p>みよし ゆういちろう 三好雄一郎</p>	<p>第5分団 おおさわの りひろ 大澤雅弘 (鶴吉班) かみもり しんいち 上森真一 (神崎班)</p>	<p>第6分団 わたなべ しょう 渡部翔 (永田班) ひの まさふみ 日野雅文 (大溝班)</p>
<p>第7分団 しのはら ともみ 篠原知臣 (恵久美班) たる みけいご 垂水啓悟</p>	<p>第8分団 しげまつ かずと 重松和人 (西古泉班) きのした こうじ 木下幸治 (昌農内班)</p>	<p>第9分団 たにだん たらう 谷田慎太郎 (北川原班)</p>	<p>平成27年度の 新入団員(敬称略)</p>